

踏 み 跡 < My mountains >

大菩薩

葛野川より牛ノ寝をめざしたが・・・

No. 009

大菩薩山塊の石丸峠から東側に大きく横たわり、多摩川の源流の小菅川と、桂川の源流の葛野川の分水嶺になっている稜線は「牛ノ寝通り」と名が付いている。牛が座って寝ている形によく似ていることからこの名がついたのだが、実景を見れば「なるほど」と手を打ちたくなるような、その名のとおりの山容である。東に伸びた長い尾根は都留三山（扇山・権現山・百蔵山）につながっており、中央線沿線の山の「主」のような存在だ。

石丸峠から南に一直線に伸びて笹子トンネルの上まで来て道志山塊とつながる小金沢連嶺と並んで、大菩薩山塊の目玉と言えるような存在になっている。

この二つの稜線は、地形図で見ていると、機会があったら歩いて見たいと思うような魅惑の存在で、山歩きを始めて何年か経つと行きたくなる人が多かった。

奥多摩の笹尾根で味を占めた私は、地形図を漁って面白い尾根を探し始めていた。

校外授業で猿橋の駒橋発電所の見学が決まった。終了後は現地解散なので、そのまま山に入ろうという恩田の計画に乗ったのは関根、原と私だった。



昭和 36 年 9 月 18 日

発電所見学が終わり現地解散。東京へ帰る級友を見送った後、恩田・原・関根とともに猿橋の町に消えた。

上和田に向かうバスにはまだ時間があるため、桂川の河原でカレーライスを作り夕食を済ませて上和田行の最終バス（18時05分）に乗った。（65円）

上和田19時15分着。星空でまずまずの天気。19時30分 暗闇となった葛野川奥の部落にテントを張って、初日の行程は終了。20時就寝。

写真：発電所見学の後、名勝 猿橋の河原で昼食

学生服姿の門間(?)と飯島に、登山服姿の小林と関根

昭和 36 年 9 月 19 日

0時頃に目が覚めたら少し雨が降ってきたが、やがて明るい月の光が出てきたので安心してもう一眠り。

2時起床、豚汁を作って朝飯。

4時に出発。バス道を少し戻り、中風呂から佐野峠に上がる道に入ろうという計画。

歩き出して 30 分ほどで夜が明けてきたが、同時に雨が降り出してきた。

4時30分 八坪への分岐点で20分ほどの雨宿り。

牛ノ寝に取り付くべく葛野川を渡り佐野峠に向かう山道に入った。雨は次第に強くなってきたし、道も心細げな藪がちになり、流れるように顔をすべる雨滴に首筋もビショビショ。

そんなことをしてやっと飛び出した稜線は、道もなく雨に煙る谷に景色は何も見えない。地図と磁石があっても実景が見えないのでは現在位置の特定もできない。果たしてこの尾根は牛ノ寝なのか？それとも支稜なのか、さっぱりわからない。

しばし議論の末、ここで打ち切りにしようという決定がリーダー（恩田）の口から下された。

初めてのテント生活、初めての雨の中の行動は、そんなこんなで失敗に終わった。

以上

（修正・更新：2023年9月）